

令和 7 年第 1 回石狩市下水道事業運営委員会会議録

開催日時：令和 7 年 2 月 12 日（水）10：00～

開催場所：石狩市役所 本庁舎 5 階 第 1 委員会室

出席者：堂柿会長、小笠原副会長、井田委員、細谷委員、野中委員、鎌田委員、南委員、渡邊委員
今野委員、藤田委員

欠席者：渡部委員

説明員等：蛸谷水道部長、伊藤下水道課長、田中主査、安彦主査、山崎主任

傍聴者：なし

【10 時 00 分 開会】

1 開会

2 委嘱状交付（机上交付）

3 部長挨拶

- ・出席者員数（10/11 名）及び会議成立の報告。

4 委員及び事務局の職員の紹介

- ・会議の公開について。

5 議事

（1）会長・副会長の選出

- ・事務局案（会長 堂柿栄輔氏、副会長 小笠原紘一氏）を提示。全員異議なし。案のとおり決定。
- ・会長挨拶。以後、議事進行は会長が務める。
- ・堂柿会長より、議事録の作成方法について「要点筆記」の提案があり、全員異議なく提案のとおり決定。

（2）下水道事業の概要についての説明（資料説明：安彦主査）

- 今野委員： 15 ページにおいて、石狩市の下水道計画内の河川の水質において茨戸川が 4.2mg で基準値オーバー。水質改善中であると説明があったが、いつ頃という目途は立っているのか。
- 伊藤課長： 具体的な目標年次はないが、茨戸川清流ルネッサンスという水質改善の取組を行っており、その一端として茨戸処理場の高度処理化もしていることから、徐々に水質の改善はされてきており将来的に目標をクリアできると考えています。
- 小笠原副会長： 30 ページのような補修をした場合に、パイプの強度というのは増すのか。
- 安彦主査： 内面からの補修により、通常のヒューム管より強度が上がるという結果が出ており、耐震化の強度も図られます。
- 小笠原副会長： 補修後に数十年経過した腐食した場合同様に内側からコーティングするような工法になるのか。

- 伊藤課長： 将来的に同一箇所で腐食や破損が起きた時にまた内面から補修ができるかは、その時の腐食具合を判断して検討することになると思います。
- 小笠原副会長： 八潮市のように口径が非常に大きい時の事故は想定されるが、パイプを根本的に布設替えするとなれば、バイパスを作って切り替えるという方法しかないのか。
- 伊藤課長： 市の污水管は管径 90cm 程度で八潮市ほど大口径の物はなく、大規模な陥没の対策について難儀することはないと思いますが、腐食の状態などを見て工法を判断していくことになります。
- 小笠原副会長： 市の雨水管の放流先はどうなっているのか。また放流するときはポンプアップなのか自然流下なのか。資料 1 ページではポンプアップしている絵になっている。
- 伊藤課長： すべて河川に流下しています。雨水についてポンプアップしている箇所はありません。
- 鎌田委員： 下水道管の破損が原因で陥没はあるのか。
- 伊藤課長： 年間に数件道路上の陥没は発生しており、今年下水道に起因するのは 2 カ所程度でありました。
- 鎌田委員： どのような補修なのか。また、原因は下水管に砂や土砂が流入してなのか。
- 伊藤課長： 旧石狩市域は基本的に地下水位が高く砂質地盤なため、ひびが入ると水と共に砂が吸い出されコンクリートの継ぎ目から陥没することが多い。継ぎ目部分をモルタルで補修などしています。
- 堂柿会長： その他ないでしょうかね。では「今後のスケジュールについて」に進みます。
- 伊藤課長： 次回の開催は 8 月頃、処理場などの下水道施設の見学を予定しており、詳細な日時等については改めてご案内します。
- 堂柿会長： 以上で令和 7 年第 1 回石狩市下水道事業運営委員会を散会します。

【11 時 10 分 閉会】

令和 7 年 3 月 15 日 会議録確認済み

石狩市下水道事業運営委員会

会 長 堂 柿 栄 輔